

## 特別シンポジウムOS04

### FIP（国際薬学連合）フォーラム2014

#### 「Responsible Use of Medicines—患者に正しく確実に薬を届けるために—」

#### FIP Forum 2014

#### “Responsible Use of Medicines—To Supply Right Medicine to Right Patient”

熊本 卓哉<sup>1</sup>

<sup>1</sup>武蔵野大薬

薬剤師の重要な業務の1つに、患者に正しく確実に薬を届けることがあげられる。製薬会社による承認申請の後、厚生労働大臣に承認された医薬品は病院や地域薬局へと運ばれ、処方箋のやり取りを通じて最終的に患者へと届けられる。このような一連の流れが、世界的に見ると必ずしもその通りに行われていないケースが見られる。たとえば、多くの国で、地域や利便性の問題からインターネットを通じた供給などが一般的に行われている。その一方で偽薬の問題は深刻で、ある国においては市販されている薬の60%を偽薬が占めているという報告もある。最近では、インターネットを通じた医薬品の供給が日本でも検討されつつある。また、新医薬品の供給に目を向けると、医薬品医療機器総合機構（PMDA）においてチーム審査方式による新医薬品の承認審査が行われ、薬事法に基づいた承認の後、新薬が供給されている。さらに、地域薬局における薬の供給は、在宅医療やそのほか特別な体制を通じて成果を上げている例もある。このような背景のもと、本フォーラムでは、薬剤師および医療関係者が患者に正しく確実に薬を届けるための世界的な視野から見た問題点と対応、日本におけるこれまでの体制や成果、今後の変化や展望についてまとめてみたい。